

1 気象概況 (果樹研究所)

6月の平均気温は21.8℃で平年より1.8℃高く経過しました。また、6月の降水量は50.5mmで平年比42%と少ない状況でした。

2 土壌の水分状況 (果樹研究所)

7月1日時点の土壌水分 (pF値：果樹研究所なしほ場：草生・無かん水) は、深さ20cmで2.8、深さ40cmで2.8、深さ60cmでは2.9となっており、乾燥状態にあります (図1)。

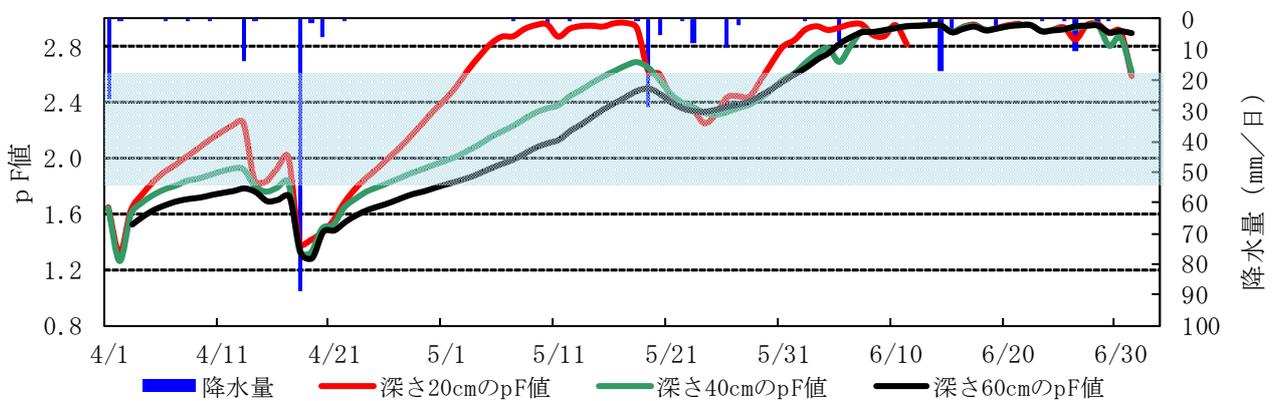


図1 土壌pF値の推移 (果樹研究所なしほ場：草生・無かん水)
 図中の網掛け部は、適湿の範囲 (pF1.8-2.6) を示します。

3 生育概況 (7月1日現在、果樹研究所)

(1) もも

ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「あかつき」は縦径が52.0mmで平年比108%、側径が52.8mmで平年比115%、「ゆうぞら」は縦径が51.5mmで平年比112%、側径が47.1mmで平年比116%と平年より大きい状況です。

満開後日数の体積指数で比較すると、「あかつき」は平年比102%で平年並、「ゆうぞら」は平年比110%で平年よりも大きい状況です。

イ 新梢生長

満開後80日における「あかつき」の新梢生長は、新梢長が20.7cmで平年比158%と長く、展葉数は17.6枚で平年比114%と多く、葉色 (SPAD値) は41.6で平年比95%です。「ゆうぞら」は、新梢長が20.6cmで平年比139%と長く、展葉数は17.1枚で平年比114%と多く、葉色 (SPAD値) は40.7で平年比92%です。新梢停止率は、「あかつき」が66.7%、「ゆうぞら」が70.0%と両品種とも平年より低い状況です。

ウ 核障害

満開後75日における「あかつき」の核障害発生状況は、核頂部亀裂が65.0%と平年より多く、縫合面割裂は5.0%と平年より少ない状況です (表1)。

エ 硬核期終了日と収穫期予測

「あかつき」の硬核期終了は、6月19日頃で平年より9日早くなりました。

7月1日現在のDVRモデルによる「あかつき」の収穫予測では、本年の収穫開始日は7月25日頃で平年より8日早い見込みです。

表1 ももの核障害発生状況（品種：「あかつき」） (単位：%)

年		30日	45日	50日	55日	60日	65日	70日	75日	85日	95日	収穫果
2020	核頂部亀裂	16.7	45.0	50.0	60.0	60.0	60.0	60.0	65.0	—	—	—
	縫合面割裂	0	0	0	0	0	0	10.0	5.0	—	—	—
2000 ～2019	核頂部亀裂	37.5	36.8	45.3	51.5	53.0	50.3	48.2	41.8	47.3	48.2	48.2
	縫合面割裂	0	0	1.8	2.5	12.0	23.3	23.8	22.8	32.8	36.6	25.6

表2 ももの発育予測（7月1日現在）

品 種	収穫開始日		
	本年予測	平年	平年差
あかつき	7月25日	8月2日	8日早い

注) 発育速度（DVR）モデルによる発育予測
平年値は1986～2015年の平均

(2) な し

ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「幸水」は縦径が34.2mmで平年比105%、横径が41.7mmで平年比106%と平年よりやや大きく、「豊水」は縦径が35.1mmで平年比102%、横径が38.8mmで平年比104%と平年並の状況です。

満開後日数の体積指数で比較すると、「幸水」は平年比103%で平年並、「豊水」は平年比90%で平年よりも小さい状況です。

イ 新梢生長

満開後70日における「幸水」の予備枝新梢長は114cmで平年比105%と平年よりやや長く、不定芽新梢長は106cmで平年比112%と平年より長い状況です。予備枝新梢の葉枚数は29.6枚で平年比100%と平年並です。

満開後70日における「豊水」の予備枝新梢長は103cmで平年比99%と平年並、不定芽新梢長は94.6cmで平年比108%と平年よりやや長い状況です。予備枝新梢の葉枚数は28.2枚で平年比101%と平年並です。

ウ 生育予測

7月1日現在のDVRモデルによる「幸水」の裂果初発日は7月7日頃と推測されます。また、同モデルによる収穫予測は、収穫盛期が8月25日頃で平年より6日早い見込みです。

(3) りんご

ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「つがる」は縦径が46.9mmで平年比94%、横径が54.8mmで平年比100%と平年よりやや小さく、「ふじ」は縦径が45.1mmで平年比101%、横径が49.3mmで平年比105%と平年並です。

満開後日数の体積指数で比較すると、「つがる」は平年比87%で小さく、「ふじ」は平年比107%でやや大きい状況です。

(4) ぶどう

ア 新梢生長

発芽後70日における「巨峰」（有核）の新梢長は108.8cmで平年比147%と平年より長く、展葉数は15.5枚で平年より多い状況です。また、「巨峰」（無核）の新梢長は187.9cmで平年比139%と平年より長く、展葉数は20.9枚で平年より多い状況です。

気象庁[営農活動に役立つ気象情報] <http://www.jma.go.jp/jma/kishou/nougyou/nougyou.html>

4 栽培上の留意点

(1) 共通

例年、梅雨期は降水量が多く、湿害の危険性が高まります。土壌の過湿は、葉の褐変や黄変落葉を引き起こす原因となるので、停滞水が発生しやすい園地では排水対策を徹底します。

また、落葉した場合は、着果量の見直しを行いましょう。

なお、6月は降雨が少なく、土壌は乾燥傾向でした。今後も降水量が少なく、土壌の乾燥が進む場合は、以下の対策を実施しましょう。

ア かん水

5月から夏期にかけて果樹園からの1日当たりの蒸発散量は、晴天日で6～7mm、曇天日で2～3mm、平均で4mm程度のため、1回のかん水は25～30mm程度(10a当たり25～30t)を目安とし、5～7日間隔で実施しましょう。保水性が劣る砂質土壌などでは、1回のかん水量は少なくし、かん水間隔を短くします。

イ 草刈り、マルチ

樹と草との水分競合を防ぐため、草生園では適宜草刈りを行いましょう（草生園における地表面からの蒸発散量は、刈り草をマルチした場合、草刈りしない場合の約半分とされます）。

刈り草や稲わらのマルチを行い、土壌水分の保持に努めましょう。

(2) もも

ア 早生品種の収穫

現在、早生品種の収穫が始まっています。核や胚に障害を持つ果実は、成熟が早まりやすい傾向にあるため、果肉の軟化に注意し、収穫が遅れないように注意しましょう。

イ 修正摘果

硬核期が終了し、肥大不良果や変形果、核に障害をもった果実などが徐々に目立ってきています。このため、収穫を控えた中生種の修正摘果は数回に分けて丁寧に実施しましょう。

果頂部が変形している果実や縫合線が深い果実、果面からヤニが噴出している果実、果皮の一部が変色している果実、極端に肥大の早い果実、果頂部の着色が早い果実などは、核や胚に障害があることが多いので、これらに注意して摘果を実施します。

ウ 中生品種の収穫前管理

「あかつき」の収穫期予測では、収穫開始が平年より8日早い見込みです。ただし、核障害の発生が多い場合には、核や胚に障害を持つ果実が早熟する傾向にあるため、注意が必要です。

「あかつき」等中生種は7月上～中旬頃から着色期に入るため、夏季せん定、支柱立てや枝吊り、反射シートの設置など収穫前の管理が遅れないよう計画的に実施しましょう。また、降雨により園内に停滞水がみられる場合には、明きょを掘るなど速やかな排水に心がけましょう。

エ 着果量が少ない場合の管理

着果量が少ない園地や品種では、小玉果や縫合線が深い果実、軽度の変形果であっても着果させ、着果量の確保を優先してください。

また、着果不足により新梢が旺盛に生育している場合は、過繁茂になりやすいため、夏季せん定など新梢管理を適正に行い、樹勢の調節を図るとともに、農薬の透過性を改善しましょう。

(3) な し

ア 新梢管理

「幸水」では、腋花芽の着生向上を目的として新梢誘引を実施する場合は、新梢生育が停止する前に予備枝誘引作業を完了する必要があります。そのため、まだ誘引を終了していない場合は速やかに作業を進めましょう。

また、新梢誘引は樹冠内の光条件を改善するとともに、散布むらを減らし、翌春における長果枝の棚付け作業の効率化なども期待できるので、「幸水」以外の品種でも積極的に実施しましょう。

イ 着果管理

仕上げ摘果はできるだけ速やかに終了させましょう。この際、着果過多にならないよう、単位面積当たりの着果量を確認しながら摘果作業を進めましょう。なお、裂果が観察される時期の摘果は他の果実の裂果発生を助長するおそれがあるので控え、裂果が終息（満開後90日頃）したら修正摘果を実施します。

ウ 着果量が少ない場合の管理

着果量が少ない園地や品種では、小玉果や変形果であっても着果させ、着果量の確保を優先してください。

また、着果不足により新梢が旺盛に生育している場合は、過繁茂になりやすいため、夏季せん定や誘引など新梢管理を適正に行い、樹勢の調節を図るとともに、農薬の透過性を改善しましょう。

(4) りんご

ア 着果管理

7月に入ると花芽分化期を迎えます。仕上げ摘果の遅れは花芽分化率を低下させる原因となるため、満開後60日頃までに仕上げ摘果を終了させましょう。

仕上げ摘果終了後は、随時修正摘果を実施し、小玉果や変形果、病虫害の被害果、傷果、サビ果等を摘果しましょう。

イ 枝吊り・支柱立て

果実肥大に伴い枝が下垂するので、樹冠内部の日当たり改善と枝折れ防止のため、支柱立てや枝吊りを実施しましょう。

(4) ぶどう

ア 着房数管理

着房過多は、糖度上昇の遅れや赤熟れ果の発生の要因となります。また、耐寒性の低下や翌年の発芽不良、樹勢の低下などにも影響することから、ベレーゾン（水回り）期までに着房数の見直しを行い、適正着果量に調整します。最終着房数の目安は、「巨峰」では 3.3m^2 当たり9～10房、「高尾」では10～11房とし、樹勢や今後の天候の推移をみながら適宜調整を行いましょう。特に、夏季に低温・日照不足が続く場合には、着房数の制限が必要です。

イ 袋かけ・カサかけ

摘粒作業が終わりしだい、速やかに薬剤散布を実施し、袋かけ・カサかけを行いましょ

う。この作業は病害虫防除や果実の汚れ防止、日焼け防止のために重要な作業です。また、使用した枚数を把握し、着果量調整の目安とします。棚面が明るい部分では果房に直接強い日光が当たり、日焼けなどの高温障害を引き起こすため、遮光率が高いカサの利用や直射日光が当たらないように新梢の誘引を見直す必要があります。

5 病害虫防除上の留意点

(1) 病害

ア りんご褐斑病、輪紋病

輪紋病は果実、枝梢部ともに感受性が高い時期となります。また、降雨日が多くなると褐斑病の発生にも注意が必要です。そのため、7月上旬にいずれの病害にも効果がある薬剤を十分量散布しましょ

イ モモせん孔細菌病

う。6月下旬の県北地域における発生ほ場割合は、新梢葉、果実ともに平年よりやや高い状況にあるため（6月29日付け令和2年度病害虫発生予察情報・発生予報第3号）、注意が必要です。罹病部は二次伝染源となるため、見つけしだいせん除して適切に処分するなど耕種的防除を徹底してください。また、薬剤防除は、収穫前日数に十分注意して実施してください。

ウ ももホモプシス腐敗病、灰星病

早生種では灰星病の重要防除時期に当たるので、7月上旬及び中旬に灰星病防除剤を散布してください。中～晩生種では灰星病とホモプシス腐敗病を同時防除するために、7月上旬にダコレート水和剤 1,000倍を使用しましょ

エ なし黒星病、輪紋病

う。6月下旬の県内全域における新梢葉での発生ほ場割合は平年並ですが、果実での発生ほ場割合は平年よりやや高い状況にあり（6月29日付け令和2年度病害虫発生予察情報・発生予報第3号）、注意が必要です。また、輪紋病の重点防除期にも当たるため、7月上旬及び中旬に7～10日間隔で黒星病、輪紋病に効果がある殺菌剤を十分量散布してください。

なお、6月4半旬以降、果樹研究所では6月19日、26日及び27日に黒星病の感染好適条件が出現しており、今後、降水量が多くなると、二次感染により黒星病の発病が増加するおそれがあります。黒星病の罹病部位は見つけしだい取り除いてください。

オ ぶどう晩腐病

袋掛け前にはストロビードライフロアブル 2,000倍を散布し、散布後速やかに袋掛けを行いましょ

(2) 虫害

ア モモハモグリガ

モモハモグリガ第3世代の防除適期は、7月1半旬頃と推定されます。本種の発生は、放任園や無防除のハナモモ等が影響していると考えられるため、こうした発生源が近隣にある園地では、今後も発生に注意しましょ

イ ナシヒメシンクイ

う。ナシヒメシンクイ第2世代の防除適期は、6月6半旬であったと推定されるため、防除を実施していない場合には速やかに実施してください。本種はもも等核果類の新梢伸長が停止するとなし果実への寄生が増加します。例年、なしの果実被害が多い地域では、第2世代以降の防除を徹底してください（表3）。

ウ モモノゴマダラノメイガ

本種の被害が予想されるもも園では、7月2半旬頃までの防除を重視しましょう。なお、被害果実は見つけしだい摘除して5日間以上水漬けするか、土中深く埋めて適切に処分しましょう。

エ ハダニ類

高温が続く場合はハダニ類の急増に注意し、要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭以上）の密度になったら速やかに防除を行きましょう。

オ カメムシ類

フェロモントラップ調査における6月のカメムシ類の誘殺数は、例年より多く確認されているため（令和2年度6月26日付け病害虫発生予察情報・注意報第4号）、注意が必要です。カメムシ類の飛び込みをよく観察し、多数の飛来が見られる場合は速やかに防除を行きましょう。

表3 果樹研究所における防除時期の推定（令和2年7月1日現在）

今後の気温予測	モモハモグリガ		ナシヒメシンクイ	
	第2世代 誘殺盛期	第3世代 防除適期	第1世代 誘殺盛期	第2世代 防除適期
2℃高い	7月1日	7月5日	6月18日	6月29日
平年並み	7月1日	7月5日	6月18日	6月29日
2℃低い	7月2日	7月7日	6月18日	6月29日

注) 起算日：モモハモグリガ6月6日、ナシヒメシンクイ5月3日

(演算方法は三角法)

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7344

(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>